

銀賞

浄化センターの働きから学んだこと

上種 紗夜

小郡市立大原小学校

わたしは「宝満川浄化センター」という所に、見学へ行きました。そこには、水をきれいにするための、いろんな働きがありました。

一つ目は、しせつの働きです。例えば「沈砂池」というしせつの働きです。「沈砂池」とは、汚水中の大きなごみや、土砂を沈めて取り除くしせつです。他にも、「汚泥処理設備」や「最初沈殿池」というしせつがありました。わたしは「水をきれいにするためにはこんな機械が必要なんだ。」とおどろきました。

二つ目は、「活性おでい」の働きです。活性おでいは、よごれた水、汚水をきれいにしてくれます。汚水をきれいにするまで、約二十時間もかかるそうです。わたしはそのことを聞いて、「水をきれいにするためには約一日もかかるんだ。」と予想もしなかった長い時間におどろきました。

三つ目は、係の人の働きです。その働きとは、やくそくをよびかけている、ということ。やくそくは二つあります。一つ目のやくそくは、トイレの時は、トイレトパーパー以外の物は流さないということです。二つ目のやくそくは、台所から油を流さないということです。理由は、活性おでいが働けなくなり、宝満川をよごす原因になるからです。係の人が、見学に来たわたしたちにやくそくをよびかけているのは、水をきれにするための働きなのだと、あらためて感じました。係の人たちから教えてもらったお願い、やくそくをわすれず

に、守っていきたいです。

このように、見学へ行く前の自分をふり返ると、知らないことばかりで、使った後の水のことを考えもしませんでした。でも、この見学で分かったことは、使った水はきれいになってもどつてくる、ということ。前の自分は「どうせ使っても、もどつてこないんだから、食べのこしを水で流しても、きたない水のまま流しても、別にいいでしょ。」と思いこんでいました。でもこの見学でわたしはかわりました。この見学を終えたわたしと、見学へ行く前のわたしをくらべると、「いままで自分は何をしていたんだろう。」とめんどくさい気持ちから、後かいた気持ちにかわりました。これからも、この見学で学んだことを生かして、自分にできることを実行していきたいです。また、見学へ行く前のわたしと同じ考えをもっている人に水をきれいにするために、自分にできることを教えてあげたいです。